

単元について

この単元では、聖徳太子が政治を行った頃から聖武天皇が国を治めた頃までの内容について学習します。ここでは、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子の三つの事象を取り上げ、次に示す資質・能力を身に付けることができるようにします。

「知識」に関わる事項では、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにします。

「技能」に関わる事項では、遣隋使の航路や正倉院の宝物が渡来した経路を世界地図などの資料で調べてまとめたり、大化の改新や大仏造営の様子などを資料で調べて年表などにまとめたりする技能を身に付けることができるようにします。

「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項では、社会的事象の見方・考え方を働かせ、聖徳太子はどのような国づくりを進めたか、国づくりには聖武天皇のどのような願いが込められていたかなどの問いを設けて、大陸文化を取り入れた政治の様子、大化の改新を経て進められた天皇中心の政治の様子、大仏造営に込められた聖武天皇の願いや造営の様子について調べ、これらの事象を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、文章で記述したり説明したりすることができるようにします。

1 単元の目標

天皇を中心とした政治の確立について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、白地図や年表、文などにまとめ、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を捉え、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解するとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。 ② 調べたことを白地図や年表、文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について考え表現している。 ② 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	① 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

単元の目標や評価規準の設定については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や佐賀県教育センターHP「学習評価の進め方」、「学習評価 FIRST STEP」を御参照ください。



3 単元の指導と評価の計画(全6時間)



問題解決的な学習過程(**課題把握** → **課題追究** → **課題解決**)で単元をデザインして、単元の評価規準を指導計画の中に位置付けていきましょう。

問題解決的な学習過程で
単元をデザインする際のポイント

①児童の気付きや疑問を基に、単元の学習問題を設定します。

②単元の学習問題に対する児童の予想を基に学習計画を立て、課題解決の見通しをもたせます。

③毎時間の学習課題を追及していくための、調べる活動を設定します。

④調べた事実を基に、複数の立場や視点で多角的に考えさせるため、話し合う活動を設定します。

⑤単元の学習問題を振り返り、調べたことや考えたことをまとめる活動を設定します。

⑥学習したことを振り返ったり、新たな学習問題について考えたりする場面を設定します。

課題把握

課題追究

課題解決

時間	ねらい	○主な学習活動・内容	評価の重点	評価方法と【評価規準】
1 (本時)	聖徳太子が行った政治について整理し、学習問題をつくることができる。	○聖徳太子が行った政治について資料で調べ、学習問題をつくる。 ○聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、誰が、どのように受け継いでいったのか、という課題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。	記録	ノートの記述内容や発言内容から「当時の世の中の様子や聖徳太子の行った政治に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【思-①】 ノートの記述内容や発言内容から「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 【態-①】
2	聖徳太子の死後、だれが、どのような国づくりを進めたのかを理解することができる。	○中大兄皇子と中臣鎌足が行った政治について調べる。 ○中国の政治のしくみを取り入れたことによる日本への影響について、資料などを基に考える。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「大化の改新をきっかけに、天皇中心の政治が進められたことを理解しているか」を評価する。 【知-①】
3	聖武天皇がどのようにして世の中を治めようとしたのかを理解することができる。	○平城京の様子や地方の人々のくらしの様子について調べる。 ○聖武天皇が行った政治について調べる。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「聖武天皇の力の大きさや力の広がりを理解しているか」を評価する。 【知-①】
4	聖武天皇の大仏づくりがどのように進められたのかを理解することができる。	○大仏の大きさや大仏造営にかけた願いについて調べる。 ○どのように大仏がつくられたのか調べる。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「大仏づくりにかけた聖武天皇の願いや大仏を完成させた天皇の力の大きさを理解しているか」を評価する。 【知-①】
5	奈良に都があったころ、日本が大陸から学んだことを理解することができる。	○遣唐使が日本にもたらしたもののや鑑真の活躍について調べる。 ○この頃日本は、大陸との交流により、どのようなことを学んだのか白地図にまとめる。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「この時代には、遣唐使や鑑真などの活躍により、大陸や仏教の影響を受けた文化が栄えたことを理解しているか」を評価する。 【知-②】
6	学習問題について調べてきたことを整理し、3つの立場で天皇中心の世の中について説明できる。	○中大兄皇子、聖武天皇、農民、それぞれの立場で、天皇中心の国づくりへの思いをまとめ、比較することで、天皇中心の世の中について説明する。	記録	ノートに記述した吹き出しの内容から「学んだことを振り返り、いろいろな立場で天皇中心の世の中について考え、表現しているか」を評価する。 【思-②】 ノートの記述内容や発言内容から「学習を振り返り、学習問題を追究し、解決しようとしているか」を評価する。 【態-①】

この単元では、[知識・技能]の記録に残す評価は、事後のペーパーテストにて行います。



単元の目標と評価規準を踏まえ、単元をデザインし、各時間の評価を行う観点及び評価する場面を決め、**[指導に生かす評価]**と**[記録に残す評価]**を計画します。

単元の指導と評価の計画の立て方については、国立教育政策研究所「[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)」や佐賀県教育センターHP「[学習評価の進め方](#)」、「[単元デザイン FIRST STEP](#)」、「[学習評価 FIRST STEP](#)」を御参照ください。



4 本時の目標

聖徳太子が行った政治について整理し、学習問題をつくることができる。

5 本時の展開(1/6) 「授業づくりのポイント チェックシート」

(□…評価 B…「おおむね満足できる」状況 ●…「努力を要する」状況(C)と判断される児童への手立て)

学習活動	教師の働き掛け（・）と評価
1 前単元での学習を振り返り、当時の世の中の様子を想起し、本時のめあてを立てる。	・前単元での学習から、国内の様子や、大陸との関係など、当時の世の中の様子を想起させるとともに、聖徳太子に関する資料を提示し、本時のめあてにつなげる。
㊦ 聖徳太子が行った政治について整理し、学習問題をつくろう。	
2 聖徳太子が取り組んだこととそれらの目的について考える。	・聖徳太子が取り組んだ「冠位十二階」「十七条の憲法」「遣隋使の派遣」「法隆寺の建設」などの内容や効果について、教科書や資料集などで調べ、その目的について考える。 ・調べたことを基に考えたことを、グループやクラスで共有し、聖徳太子が目指した国づくりのイメージを確認する。
3 学習問題をつくる。	・学習問題につなげるために、聖徳太子の業績と聖徳太子が亡くなった後の主な出来事についての年表を提示し、聖徳太子が亡くなった後の国づくりが、誰にどのように受け継がれていったのか、という疑問を生み出す。 ⇒ 工夫1:学習問題の設定の例(p.4)
【単元の学習問題】 聖徳太子がめざした国づくりは、この後どのように進められていったのだろう。	
4 学習問題に対する予想を話し合い、学習計画を立てる。	・年表の聖徳太子が亡くなった後の出来事に着目させ、「中大兄皇子」「聖武天皇」「東大寺の大仏」をキーワードに次時からの課題解決していく事項について見通しをもつ。 ⇒ 工夫2:学習計画の作成の例（p.5）
5 本時の学習を振り返り、次時からの学習の見通しをもつ。	【主体的に学習に取り組む態度】 B 単元の学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。（ノートの記述内容・発言内容） ●資料を基に、聖徳太子の亡くなった後の世の中がどのようなになったのか想像させたり、他の児童の考えを参考にさせたりして、解決の見通しにつなげる。
	・今日学んだことや自分の考えの変容、友達との話し合い活動、これからの学習の見通しなどについて振り返りを行い、次時からの学習へとつなげていく。

ポイント

【資料提示の工夫①】
導入場面では、本時のめあてにつなげることができる資料を提示します。

【調べる活動】
調べる活動は、どのような方法で、何について調べさせるのかを意識して設定します。

【学習評価】
個々の児童が本時の目標に迫ることができるよう、**〔指導に生かす評価〕**を行います。特に、「努力を要する」状況(C)と判断される児童に対しては、その学習状況を見取り、適切な指導を行います。

【資料提示の工夫②】
単元の学習問題につなげることができる資料を提示します。

【学習計画】
単元の学習問題に対する児童の予想を基に、学習計画を立て、各時間の課題解決の見通しへとつなげます。

【学習評価】
観点別学習状況の評価を総括する資料となるよう、**〔記録に残す評価〕**を行います。

【振り返り】
何について振り返ればよいかを明確に示し、本時の振り返りを行うことで、自らの学習を調整しながら主体的に学ぶことにつながっていきます。

6 本時における指導と評価の工夫

工夫1:学習問題の設定の例

「単元デザイン FIRST STEP」

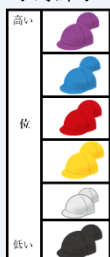
単元の学習問題を設定する際は、教師が一方的に提示するのではなく、児童と一緒に設定していくことが大切です。児童にとって学習の必然性や主体性が高まるようにしていきます。そのために、児童の気付きや疑問が生まれる資料を提示し、児童が出し合った気付きや疑問を基に、単元の学習問題を設定します。

本時の学習活動2、3における学習問題を設定していく一場面（資料1）を示します。

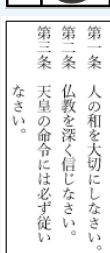
《学習活動2 聖徳太子が取り組んだこととそれらの目的について考える。》



小野妹子



冠位十二階



十七条の憲法



法隆寺



（学級全体で共有した「聖徳太子の業績」を基に）
聖徳太子は何のために、このようなことを行ったのでしょうか？

（児童がまとめたノートの記述や整理した板書を見ながら ⇒8 参考資料等(p.6)参照）

争いが起こらないようにするためです。

これからの日本をよくしていくためです。



なるほど。争いがなく、よい国とは、どのような国だったのでしょうか？

隋のように皇帝を中心として一つの国としてまとまった国だと思います。



隋は皇帝を中心にまとまっていますが、日本では…。

日本では皇帝ではなく天皇なので、聖徳太子は天皇中心の国づくりのために、このようなことを行ったのだと思います。



なるほど！このようにして、聖徳太子は、天皇中心の新しい国づくりを進めていったんですね。でも…。この年表を見てください。
気が付いたことや疑問に思ったことはありますか？

《学習活動3 学習問題をつくる。》

574	聖徳太子が生まれる
593	天皇を助ける役職につく
603	冠位十二階を定める
604	十七条の憲法を定める
607	遣隋使を送る
	法隆寺を建てる
622	聖徳太子が亡くなる
645	中大兄皇子らが蘇我氏をたおす
...	...

年表

【資料提示の工夫②】 単元の学習問題につなげることができる資料を提示します。

え！聖徳太子は622年に亡くなっています。せっかく、天皇中心の国づくりを進めていったのに、これからどうなるのでしょうか？



聖徳太子は、志半ばで亡くなってしまったんですね。この後の国づくりはどのように進められていったのでしょうか？それでは、この単元の学習問題は何にしましょうか？

聖徳太子が亡くなった後の国づくりは、どのように進められていったのか、ということについて調べていきたいです。

【資料1 学習問題を設定していく一場面】

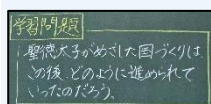
児童にとって学習の必然性や主体性が高まるようにしていくために、児童が出し合った気付きや疑問を基にするとともに、目標を踏まえた単元の学習のまとめを想定して、単元の学習問題をつくるのが大切です。

工夫2:学習計画の作成の例

学習計画の作成とは、単元の学習問題の解決に向けて、毎時間の学習課題を考えることです。学習計画を作成する際は、教師が一方的に提示するのではなく、単元の学習問題に対する児童の予想を基に作成していくことが大切です。教師の単元の指導と評価の計画を視野に入れながら、児童の経験や既習事項などを基にして単元の学習問題に対する予想を学習計画に生かしていきます。

本時の学習活動4における学習計画を立てていく一場面（資料2）を示します。

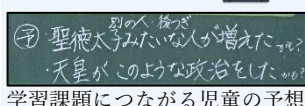
《学習活動4 学習問題に対する予想を話し合い、学習計画を立てる。》



単元の学習問題



単元の学習問題は、「聖徳太子がめざした国づくりは、この後どのように進められていったのだろう」ですね。
みなさんは、聖徳太子が亡くなった後、聖徳太子がめざした国づくりはどのように進められていったと思いますか？予想してみましょう。



学習課題につながる児童の予想



聖徳太子みたいな人がまた出てきて、天皇中心の国づくりを進めていったんじゃないかな。



中大兄皇子



聖徳太子のような人が出てきたと思いますか？



聖武天皇



年表の中に、中大兄皇子や聖武天皇という名前があります。この人たちが活躍したんじゃないかな。（2時目の学習課題へ）



なるほど。その人たちは、どのようなことをしたのでしょうか？



東大寺の大仏



大きな大仏がつくられたことが年表に書いてありました。
だれが、何のために、どのような方法で、大きな大仏をつくったのだろう？（3時目 4時目の学習課題へ）



機械がない時代だから、高い技術が必要ですね。
そのような技術は、どこから得たのでしょうか？



この時代、文化や学問、技術が進んでいた中国かな。（5時目の学習課題へ）

それでは、今みなさんが出した予想や疑問について、次の時間から調べていくことにしましょう。

【児童の予想を基にした毎時間の学習課題】

- 2時目 聖徳太子の死後、だれがどのような国づくりを進めたのだろう。
- 3時目 聖武天皇は、どのようにして世の中を治めようとしたのだろう。
- 4時目 聖武天皇の大仏づくりはどのように進められたのだろう。
- 5時目 この時代、日本は大陸からどのようなことを学んだのだろう。

（本時ではこのような提示はしませんが、児童の予想を基に次時からの学習計画とします。）

【学習計画】

単元の学習問題に対する児童の予想を基に、学習計画を立て、各時間の課題解決の見通しへとつなげます。

【資料2 学習計画を作成していく一場面】

毎時間の学習課題に、児童の発言を生かすことで、児童は、学習の連続性を感じながら、主体的に学習を進めていくことができます。

ただし、児童から出た予想や疑問だけで学習計画の全てを作成するわけではありません。単元の目標に迫るためには、児童が予想として出していない事項についても教師が意図的に提示していくことが大切です。

ポイント



7 授業者の声

単元を通して、児童が主体的に学ぶことができるようにするためには、単元の学習問題の設定と学習計画の作成を行う課題把握場面で児童に気付きや疑問をもたせ、予想を立てさせることが、とても大切だと感じました。

単元の指導と評価の計画を立て、授業を構想することで、どのような資料を準備する必要があるのかが見えてきました。本実践の単元の学習問題は、「聖徳太子がめざした国づくりは、この後どのように進められていったのだろう」であったため、まず、聖徳太子の業績を調べ、その内容や効果が天皇中心の国づくりという目的につながっていることを押さえました。その上で、聖徳太子が豪族の力を十分に抑えることができずに志半ばで亡くなってしまったということを、年表を使って読み取ることができるようにしました。本実践では、この年表の提示によって、単元の学習問題につながる児童のつぶやきがたくさん出てきました。このように、提示した資料に対して、児童が気付きや疑問を出すことで、児童自ら課題を追究していく必然性が高まり、主体的に学習を進めていくことができました。

今回、問題解決的な学習過程の課題把握場面を実践し、児童を主体的な学びへと導く大事な1時間であったと改めて感じた一方で、1単位時間で、単元の学習問題の設定を行い、それに対する予想から学習計画の作成までを行うと、45分では足りなかったことが課題でした。そのため、1単位時間の学習内容や取り扱う資料を精選していくことが必要だと感じました。本時では、聖徳太子の業績を個人で調べましたが、グループで分担して調べ、その後共有するなど、調べる活動の設定を工夫する必要があったと感じています。

今後も、単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、問題解決的な学習過程で単元をデザインしていき、児童が主体的に学ぶことができる授業づくりを行っていきたいと思います。

8 参考資料等

本時の板書例を以下に示します。まず、①当時の時代背景を確認し、②本時のめあてを設定します。その後、③聖徳太子の業績とその目的について調べ、聖徳太子が目指した国づくりについて確認します。そこで、この時代の年表を提示し、聖徳太子が豪族の力を抑えることができずに、志半ばで亡くなったことを手掛かりに、④「聖徳太子がめざした国づくりは、この後どのように進められていったのだろう」という単元の学習問題につなげます。そして、⑤単元の学習問題に対する児童の予想を学習計画に生かしていきます。

本時の板書例

②本時のめあて

④聖徳太子が行った政治について整理し、学習問題をつくらう。

（この頃の日本）
豪族の力（強）
大々しい争い
小さな国

（この頃の中国隋）
大きい一つの国
一番発展
政治・文化
皇帝中心

聖徳太子の写真

聖徳太子
一度に大々い
の話がきける
冠位十二階
十七条の憲法
天皇中心

隋の皇帝
の写真

③聖徳太子の業績

キツコ遣隋使	冠位十二階	十七条の憲法	法隆寺建設
小野妹子 を使者として いたこと	位を十二に 分けて	役人の 心構え をきまり	法隆寺を 建てた
何の ために 取り 入れるため	役人を 取り立てる ため	役人の心構え を示すため 天皇中心の 国をやるため	仏教を 広めるため 平和な世の中 をつくるため

49才でなくなる。豪族の力はおさえられ

④単元の学習問題

聖徳太子がめざした国づくりは、この後どのように進められていったのだろう。

⑤聖徳太子みたいな人が増えたって？
天皇がこのような政治をしたから

①当時の時代背景

③その目的

⑤学習問題に対する児童の予想を学習計画に生かす